First-line治療としてSLTと点眼を比較した場合、 治療効果もコストもSLTが勝っていました

THE LANCET, VOLUME 393, ISSUE 10180, P1505-1516, APRIL 13, 2019

Selective laser trabeculoplasty versus eye drops for first-line treatment of ocular hypertension and glaucoma (LiGHT): a multicentre randomised controlled trial

高眼圧及び緑内障に対する第一選択治療としての選択的レーザー線維柱帯形成術と点眼薬の比較 (LiGHT): 多施設共同無作為化対照試験

背景 原発開放隅角緑内障 (POAG) および高眼圧 (OH) に対しては、通常、眼圧下降薬による治療が行われる。選択的レーザー線維柱帯形成術 (SLT) は安全な代替治療法であるが、第一選択治療として用いられることは稀である。本研究では両治療法について比較検討した。

方法 本観察者盲検ランダム化比較試験では、POAGまたはOHを有し、他の眼併発症を有さない未治療患者を、2012~2014年に英国の6病院で募集した。患者を、SLT群または点眼群に無作為に割り付けた(ウェブベースの無作為化法)。客観的な目標眼圧は、緑内障の重症度に応じて設定した。主要評価項目は、治療開始後3年(36ヶ月)時点の健康関連QOL(HRQoL、EQ-5Dで評価)とした。副次評価項目は、費用及び費用対効果、疾患特異的HRQoL、臨床的有効性および安全性とした。

結果 登録患者718例中、356例をSLT群、362例を点眼群に無作為に割り付けた。652例 (91%) が、36ヵ月時点の主要評価項目を評価する質問票に回答した。平均EQ-5Dスコアは、SLT群が0.89 (SD 0.18)、点眼群が0.90 (SD 0.16) で、有意差はなかった (差0.01、95%CI-0.01~0.03、p=0.23)。36ヵ月 (治療開始後3年) 時点で、SLT群の74.2% (95%CI 69.3~78.6) は点眼追加なしで目標眼圧を達成していた。SLT群 (93.0%) は点眼薬群 (91.3%) よりもより多い症例で目標眼圧を達成していた。緑内障手術 (Trabeculectomy) の追加治療が必要であった患者は SLT群の例に対して点眼群11例であった。36ヵ月間の緑内障治療のコストの面で解析してみると、SLT群の方が点眼群より費用対効果が高かった。緑内障治療の変革の一環として、今後、SLTもPOAGまたはOHの第一選択治療として患者に提供されるべきである。

COMMENT

福井県済生会病院 眼科部長 新田耕治先生



私の施設では、2007年から緑内障治療の第一選択治療としてもSLTを積極的に活用してまいりました。その結果、この12年間、追加の点眼治療なしに管理可能な症例も多数経験しております。ようやくこれまでの取り組みがこのLANCETの研究でも確認されたと考えております。どうしても日本ではまず点眼治療からと考えてしまう先生が多いのが現状です。どうですか、これを機に症例を選んでSLTを第一選択治療として活用してみてください。アドヒアランスが良好でコストパフォーマンスに優れたSLTが先生や患者のお役に立つこと請け合いです。